

【理科】

■児童の状況	・身近な生き物や自然現象に興味・関心が高い。 ・理科実験や物作りなどの学習活動に意欲的である。 ・学んだことを他の事象や自分の生活に関連付ける意識が低い。
■指導についての課題	【中学年】 ・理由や裏付けのある予想をたてることが苦手である。 【高学年】 ・実験・観察結果から大切な特徴を見付け、そこから自分の考えをもち、考察することが苦手である。 ・学習して得られた科学的な見方・考え方を、次の学習や日常生活に活かすことができていない。
■授業改善に向けての具体的な方策	・一人ひとりが実験器具に触れ操作する体験を増やしたり、実際の物を観察する機会を増やしたりする。実際に見られないものについては、映像や写真、実物投影機、デジタル教科書等を活用して補う。 ・得られた資料から結論を導き出すために必要な数量や変化などの特徴に着目させ、自分の考えをもたせる。それを、結論の根拠として言葉や図などで表現させた後に、他者と意見交換することで科学的思考力を付ける。 ・学習の振り返り時などに、学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみる視点を与える。